

いたしん ニュース

ITAMISHI KONCHUKAN NEWS

第13号 2009/7

特集 むしの忍者たちと多彩な忍術



ほっとパーク昆陽池

昆陽池公園のシロアリ・ゴキブリ・ハサミムシ

このコーナーでは昆陽池公園の昆虫を、グループごとに紹介しています。前回回(トンボ)、前回(カマキリ)に引き続き、シリーズ第3弾はシロアリ・ゴキブリ・ハサミムシの仲間を一挙に公開!ちょっと地味ですが、身近なところにいる昆虫です。(長島聖大)

表・昆陽池公園で確認されているシロアリ・ゴキブリ・ハサミムシのリスト

No.	目 名	科 名	種 名
1	シロアリ目	ミゾガシラシロアリ科	ヤマトシロアリ
2	ゴキブリ目	ゴキブリ科	クロゴキブリ
3		ヒメクロゴキブリ科	ヒメクロゴキブリ
4		チャバネゴキブリ科	モリチャバネゴキブリ
5	ハサミムシ目	マルムネハサミムシ科	ヒゲジロハサミムシ
6			キアシハサミムシ
7			ハマベハサミムシ
8		オオハサミムシ科	オオハサミムシ

■ヤマトシロアリ *Reticulitermes speratus*



ヤマトシロアリ



左:働きアリ 右:兵隊アリ
体長:(約5mm) (約6mm)

ヤマトシロアリは朽ち木の中で巣を作り、女王アリ・兵隊アリ・働きアリなど個体ごとに分業しながら生活します。「白蟻(しろあり)」という名がついていますが、アリ(ハチ目)の仲間よりもむしろゴキブリに近い仲間です。

■クロゴキブリ

Periplaneta fuliginosa

体長 35mm前後。黒褐色の体に油を塗ったようなツヤのある大きなゴキブリです。昆陽池公園では建物の周辺などで見つかることがあります。



クロゴキブリ

■モリチャバネゴキブリ

Blattella nipponica

体長 16mm前後。屋内に発生するチャバネゴキブリとは胸の模様で見分けることができます。森林



モリチャバネゴキブリ

性のゴキブリで、家屋内に侵入することはまれなようです。昆陽池公園では落ち葉の下で年中観察できます。

■ヒメクロゴキブリ *Chorisoneura nigra*

体長 10mm前後の小さなゴキブリで、前胸の中央に黒い円形の斑紋があるのが特徴です。樹上で生活し、あまり多くはないようです。



ヒメクロゴキブリ

■ヒゲジロハサミムシ

Anisolabella marginalis

ハサミムシの仲間は腹部の先にあるハサミで獲物を捕らえます。ヒゲジロハサミムシは体長 25-30mmで翅はなく、触角の先端近くに白い節がいくつかあることと、脚の腿節と脛節の基半部が暗色となることが特徴です。ハサミの形はオスとメスで違い、オスの方が太短くなります。昆陽池公園では最も普通な種で、朽ち木や落ち葉のなどで生活します。



ヒゲジロハサミムシ



左:オス、右:メス

■キアシハサミムシ(コバネハサミムシ)

Euborellia plebeja

体長 10-15mm前後。小型であること以外はヒゲジロハサミムシによく似ますが、成虫は翅芽状の小さな前翅をもつことが特徴です。落ち葉や石の下で見つかります。



キアシハサミムシ

前翅

■ハマベハサミムシ(ハサミムシ)

Anisolabis maritima

体長 20-30mm。脚は黄褐色で成虫になっても翅はありません。石の下や水辺の草陰などで見つかりますが、昆陽池公園ではあまり多くありません。



ハマベハサミムシ

■オオハサミムシ *Labidura riparia*

体長 25-30mm前後。赤褐色の体に翅と立派なハサミをもつ種です。昆陽池公園では 1972 年に採集された標本と記録が残るだけで、近年は確認されていません。周辺地域では決してめずらしい種類ではないので、根気よく探してみたいと思います。



オオハサミムシ

むしムシ虫眼鏡

Vol.13 身近なかくれんぼ名人



成虫



幼虫

昆虫たちは鳥などの天敵から身を守るために様々な工夫をしています。目玉模様で相手を驚かせたり、毒や針もないのにハチの物まねをしたり、体の形や色や模様を背景にとけ込ませ上手に隠れたりします。身近なかくれんぼ名人といえばナナフシモドキでしょう。木の枝そっくりの体で、前脚をピンと伸ばした格好をされると見つけ出すのは大変です。また隠れるのが上手なだけでなく、万が一敵に見つかった時の奥の手として、自分で脚を切って逃げ

<ナナフシモドキ>

学名:*Baculum irregulariterdentatum*

分類: ナナフシ目 ナナフシ科

体長: 57-62mm (オス) 74-100mm (メス)

分布: 本州、四国、九州

たり、口から茶色い液を出したりして相手を驚かせます。主に夜行性でコナラやアラカシなどの葉っぱを食べているので、夕方から夜間に懐中電灯で雑木林の枝を探すと観察できるかもしれません。写真のようなシマシマ模様の若齢幼虫は4月下旬頃から見られるようになり、7月中旬頃には体長7~10cmの成虫になります。この夏の特別展「むしの忍者大集合」で身近な昆虫忍者として参加予定です。モドキという名がついていますがれっきとしたナナフシです。モドキがついた経緯についてはまた今度、。(野本康太)

亜熱帯の温室から

Vol.13 カエンボク

前号で紹介したカエンボクは1月7日に無事開花しました。燃えるような橙赤色の花弁は10cmを越え、地味なオリーブ色の苞(ほう)を破って、折りたたまれていた花弁が展開し、ベルを逆さにした形に変化していきました。数十個ある苞から時間差で花弁が開くのですが、その円錐花序の直径は25cmほどもありました(写真)。初お目見えをお祝いするかのように、さっそくチョウ達が訪れてくれました。リュウキュウアサギマダラ、スジグロカバマダラは、



開花したカエンボク



花弁にはいりこみ吸蜜中のナガサキアゲハ

花弁の表面に口吻をのぼし、一方オオゴマダラ、ジャコウアゲハ、ナガサキアゲハという大型のチョウは、花弁の中に体をほとんど隠し、そのまま3~4分も出てきませんでした(写真)。翅がひっかかったのかな、と心配しましたが、花の中を覗いてみて納得。ベル型の花弁の底には、栄養補給には充分すぎる3mlほどの甘い蜜が貯まっていた。開花後、種をつけることはなかったのですが、黒い槍(やり)形の果実は有毒で、原産地ではその中心部をゆでて酒を造るらしいのです。次回は受粉に注目したいと思います。(後北峰之)

<カエンボク>

学名:*Spathodea campanulata*

分類: ノウゼンカズラ科

特集【むしの忍者たち】

生き残るため、昆虫たちが進化の過程で身に着けた様々な技は、まさに昆虫版
昆虫忍者たちを紹介します。

隠れ系昆虫忍術

まわりの環境に隠れて身を守る

自らの体をまわりの自然環境や風景に似せることで、敵の目から逃れ身を守る昆虫忍術です。使い手として知られるのは、やはり「森の忍者」というあだ名を持つナナフシの仲間でしょう。とても珍しい虫だと思っている方も多いのですが、それは彼らの枝隠れの術が見事すぎてみづかりにくいからで、数が少ないわけではありません。昆虫館のある昆陽池公園では、前ページの「むしムシ虫眼鏡」で紹介したナナフシモドキを観察する事ができます。枝隠れの術と言えば、尺取虫(しゃくとりむし) という名前で親しまれている、シャクガの幼虫もすごい技をもっています。トビモンオオエダシャクの幼虫がピンと体をのばして枝になりきると、どう見ても枝にしか見えません。

昆虫館のチョウ温室にも、隠れ系昆虫忍術の達人がいるのですが、みなさんご存じでしょうか？そう、コノハチョウです。はねを閉じて木にとまる姿は、本当に枯れ葉そっくりです。はねを開くと



ナナフシモドキ



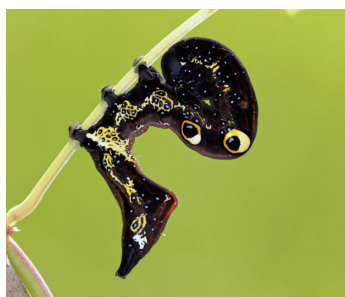
トビモンオオエダシャク幼虫



コノハチョウ

青とオレンジの綺麗な模様がとても目立つチョウなのに、はねを閉じたときとのギャップには驚かされます。

変化系昆虫忍術



アケビコノハ幼虫



アリグモ

自分の姿を変えて敵をだます

自分の姿を、他の昆虫や生物、または敵が嫌がるもの等に変身させることで身を守る昆虫忍術です。アケビコノハの幼虫は、大きな目玉模様を体につけることで、敵を驚かせます。こんな大きな目玉でにらまれたら、たいていの敵は逃げ出してしまうことでしょう。昆虫ではないのですが、アリそっくりに化けるものもあります。その名もアリグモ、8本脚のクモの1種です。昆虫は6本脚なので、あまった2本の脚をどうするかというと、これがうまく触角に見え

るように動かすのです。実は、野外でもかなり見かけるのですが、クモだと気づいてない人が大多数のような気がします。

また、鳥のうんこに変身する虫というアゲハチョウの幼虫(2～4 齢幼虫)がよく知られていますが、スカシカギバの幼虫も負けていません。観察しているとあまりのリアルさに、ガの幼虫というより鳥のうんこが動いて葉っぱを食べているような気がしてきます。パンダゾウムシというあだ名で呼ばれ人気のあるオジロアシナガゾウムシも、このうんこ化けの術の使い手です。街中でもクズが生えているところによく見かける観察しやすい虫なので、ぜひみなさんもさがしてみてください。



スカシカギバ幼虫



オジロアシナガゾウムシ

と多彩な忍術

の忍術です。2009 年夏の特別展「むしの忍者大集合」にあわせ、そんな

体術系昆虫忍術



カブトムシ

体を使った技で生き残る

生き残るために、自分の体を最大限に活用し様々な技を行う昆虫忍術です。

カブトムシが樹の上で無敵の強さを誇（ほこ）るのは、脚の先



カブトムシの爪

にある先の曲がった鋭い爪（カギ爪）を樹の幹や枝に食い込ませることで、安定した足場を手に入れる事ができるからなのです。

これこそ、昆虫忍術「カギ爪の術」です。また、はねを拡げて体を大きく見せるオオカマキリのポーズも、体を使って敵を驚かす昆虫忍術「いかくの術」です。さらに、アメンボが脚の先にはえているたくさんの細かい毛で水をはじき、表面張力を利用して水上を自由に泳ぎ回る水グモの術は、防御（敵から身を守る）と、攻撃（水に落ちてきた獲物を捕らえて捕まえる）を兼ね備えたすごい昆虫忍術なのです。このように体術系の昆虫忍術には様々なバリエーションがありますが、最も破壊力のあるのは、やはりスズメバチやチャドクガ、イラガが使う毒針の術でしょう。スズメバチはお尻の先に鋭い毒針を持っていて、強力な毒液を敵に注入するのです。チャドクガやイラガの幼虫は、全身に毒の毛やトゲがびっしりとはえていて、下手にさわると大変なことになります。



威嚇（いかく）するオオカマキリ



アメンボ



チャドクガ幼虫

特別展「むしの忍者大集合」

2009 年夏の特別展「むしの忍者大集合」は、昆虫館の第2展示室をまるごと忍者屋敷に変え、その中で様々な昆虫忍者たちを紹介します。昆虫たちが生きのびるため、進化の過程で身につけた様々な昆虫忍術を通して、自然の奥深さや自然観察の楽しさを感じていただければ幸いです。また期間中は、コノハムシやハナカマキリなど、外国の昆虫忍者たちの生体展示も行いますので、この貴重な機会にぜひ観察してください！（奥山清市）



コノハムシ



ハナカマキリ幼虫

【さいきんの

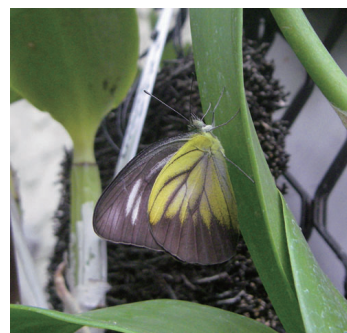
台湾シロチョウの復活！

チョウ温室で飼育展示していた台湾シロチョウは、病気などで調子が悪くなり、2007年1月頃から途絶えていました。食草はツマベニチョウやクロテンシロチョウと同じギョボク（フウチョウソウ科）で、特に台湾シロチョウは新芽を好んで食べます。この3種への食草の供給バランスが難しく、また病気にもかかりやすかったのです。

この3月末に、奈良県にある橿原市昆虫館から卵や幼虫をわけていただき、2年ぶりに飼育が始まりました。毎日、産卵数や幼虫の状態に注意しながら、累代飼育の安定をめざしています。

チョウ温室内でパタパタとすばやく飛び回る台湾シロチョウをぜひ探してみてください。羽化したてのオスは、とても鮮やかな黄色いはねがよく目立ちます。（角正美雪）

写真上左から オレンジ色の卵（約1mm）、終齢幼虫、蛹
写真下左から オス成虫、メス成虫



昆虫缶バッジ大集合！

2009年4月1日から5月11日で開催されたプチ展示「昆虫缶バッジ大集合！」では、昆虫館オリジナルデザインのバッジをがなんと200種類以上展示されました。ヘラクレスオオカブト

やオオゴマダラなどの人気昆虫はもちろん、ハンミョウやオオカマキリの顔面アップ写真や、スズメバチやチャドクガやマムシなどの危険生物、角正学芸員デザインの昆虫ゆるキャラまで、バリエーション豊かなバッジが並ぶラインナップは中々のものでした。もち



バッジの販売の様子。種類がありすぎて、皆さん悩んでいました



レテノールモルフォチョウのバッジをプレゼント

ろん、これらの缶バッジは全て購入可能で、期間中は昆虫館のお土産として好評でした。ちなみに一番の売れ筋はナナホシテントウ、次点がカブトムシの缶バッジでした。また、同じプチ展示の「金ぴか昆虫大集合！」と館内コラボレーションし、5月5日こどもの日特別企画として、先着100名の方にモルフォチョウのバッジをプレゼントしました。ピカピカ光って見える特別仕様のバッジは、レア感溢れる逸品で、みなさんから大好評でした。（奥山清市）

飼育室から

昆虫館が伊丹スカイパークに出展

飛行機が見える公園として大人気の行楽スポット「伊丹スカイパーク」に昆虫館が出展展示を行いました。ハウセキゾウムシ、モルフォチョウ、タマムシやハンミョウなど世界や日本のきらきら輝く昆虫を集めた「金ぴか昆虫大集合」です。約1ヶ月の短い期間でしたが公園を訪れたついでに、ミニ昆虫館を楽しんで頂けたのではと思います。スカイパーク出展は今後も企画中です。(野本康太)

伊丹市昆虫館がスカイパークにやってきました！



出張展示の様子

温室植栽改造



植え替え前の「手すりブーゲン」赤、白、ピンクのブーゲンビレア

4月14日に改造したのは手すりブーゲンと呼んでいる場所で、滝の手前で日当たりの良い1等地です。当初設計では、温室に入られたお客様にタコノキの背景に咲き乱れるの様子を楽しんでもらえるように植栽されていました。目的どおり最初の2年ほどは咲いてくれたブーゲンビレアが、いくら水をきらしても咲かなくなっていました。鉢をはずし地植えしていたために根が伸び、養分をもらえるようになったため咲かなくなったようです。そこで、このブーゲンビレアを抜き、訪花成績の良いメキシコサワギクに植え替え、小さい子供たちの目線で、

蜜を吸うチョウの行動を観察してもらえるゾーンにすることにしました。メキシコサワギクが成長するまでの間は、ナデシコやガウラ、ダニア、トケイソウなどもあ



植え替えの様子

わせ、これまでのトゲのある緑の壁から、見通しが良く明るい雰囲気の花壇に変わりました。(後北峰之)

写真解説提供！昆虫図鑑切手

2009年6月4日(ムシの日)に郵便局株式会社よりフレーム切手「昆虫図鑑」が発売されました。当館が製作に協力し、カブトムシやスズメバチなど10種類の昆虫が50円切手の図柄になったもので、昆虫の簡単な解説付きです。新聞各紙に掲載され、切手は数日でほぼ完売となりました。昆虫館では「切手になった昆虫たち」と題し、昆虫がデザインされた日本の切手60種とその題材となった昆虫標本40点を8月31日まで展示中です。(野本康太)



切手の拡大写真



昆虫図鑑切手シート

オリジナルグッズ満載。ショーケース完成。

昆虫缶バッジに昆虫シール、昆虫館オリジナル紙袋、「虫のおりがみ」などの書籍、などなど昆虫館受付では、伊丹市昆虫館ならではのオリジナルグッズや書籍を販売しております。最近これら商品展示用のショーケースが



完成しました。ドリンクコーナーで休憩しながらオリジナルグッズの数々をじっくりご覧いただけます。(野本康太)

きんき昆虫館 3 館企画「昆虫館スタンプラリー 2009」

箕面・橿原・伊丹のきんき昆虫館 3 館をめぐってスタンプを集める昆虫館スタンプラリー、今年も開催中です!期間は 6 月 4 日(木)～9 月 30 日(水)、達成者への景品は外国のカブトムシ・クワガタムシがデザインされたオリジナルバンダナです。数量限定なので、ゲットした



いは早めにラリーに挑戦してくださいね!(奥山清市)

館内のサイン看板が新しくなりました!

「チョウ温室はどこ?」「トイレはどっち?」。お客さまから毎日のように聞かれる言葉です。というのも、今までのサイン看板は大きさ、目立ちやすさの面で充分ではありませんでした。

そこで、ひと目で行きたい場所がわかるよう、4 月から館内のサイン看板、また「おしらせ」や「おねがい」など注目情報の看板



のデザインを新しく統一しました。デザインはリーフレットや夏の特別展ポスターを手がけているデザイナーさん。遠くからでも目立つオレンジ色の看板

がみなさまをご案内します!(角正美雪)

もよおしあんない

8 月

- 15 (土) ぎたいクイズ
- 22 (土) 昆虫標本の作り方講座 予約制
- 23 (日) 伊丹市昆虫館友の会出展
- 26 (水) むしむし万華鏡づくり
- 30 (日) 虫のおりがみワークショップ 予約制

9 月

- 19 (土) チョウ温室ガイド

10 月

- 10 (土) ふれあい体験「むしさんこんにちは」
- 11 (日) 虫のおりがみワークショップ 予約制
- 18 (日) 食虫植物ガイド
- 25 (日) こも巻き調査 (2 回連続) 予約制

11 月

- 7 (土) みんなで飾ろう!さなぎツリー 予約制
- 14 (土) むしの絵本のよみきかせ
- 21 (土) ふれあい体験「むしさんこんにちは」
- 29 (日) むしの絵のとびだすカードづくり 予約制

12 月

- 5 (土) 昆虫食試食会
- 12 (土) みんなで飾ろう!さなぎツリー 予約制
- 13 (日) 虫のおりがみワークショップ 予約制
- 20 (日) みつろうキャンダル作り 予約制

特別展

企画展

ブチ展示

7/15 ~ 8/31 むしの忍者大集合!

9/5 ~ 11/23 おんしつ
11/25 ~ 2/8 昆虫写真をたのしもう
2/10 ~ 4/5 ごきぶり

7/22 ~ 8/31 虫のふれあいコーナー むしのもちかたさわりかた
9/16 ~ 10/19 これ害虫なん? ② あぶないスズメバチ
10/7 ~ 11/3 食虫植物
11/5 ~ 11/29 成広のり子 むし・虫 絵本原画展
11/7 ~ 12/25 クリスマス企画・さなぎツリー
12/9 ~ 2/1 ふゆごし
1/1 ~ 1/14 いたこんでニューイヤー 干支のトラ虫大集合
2/3 ~ 3/1 友の会活動紹介

講習会・観察会の申込方法

くわしい内容は...

申し込むには...

- ・伊丹市内に在住の方
「広報伊丹」をごらんください。
*広報伊丹へは実施日の約 1 ヶ月前に掲載します。
電話での問い合わせには掲載以降に案内します。
*広報伊丹は伊丹市ウェブサイトでご覧になれます。
- ・伊丹市外に在住の方
電話でお問い合わせください。
*講習会・観察会実施日の約 1 ヶ月～2 週間前までに
お問い合わせください。

- ・往復ハガキ、FAX、Eメール(携帯電話不可)で。
行事の名前、参加する全ての方の Eメールアドレスなどを記入し、受付期間内にお送り下さい。
- ・申込多数の場合は抽選になります。
- ・往復ハガキの宛先住所
〒664-0015 伊丹市昆陽池 3-1 伊丹市昆虫館
・FAXの宛先番号 072-785-2306
・Eメールアドレス ge7n-skmt@asahi-net.or.jp

〒	参加希望の講座名
返信	参加希望者全員の 名前・学年(年齢)
あなたの住所 氏名	住所
	電話番号
	(往復ハガキ・表)

〒664-0015	伊丹市昆陽池 3-1
往信	伊丹市昆虫館
	行
	何も書かないで ください
	(往復ハガキ・裏)

編集スタッフより

今号から、表紙右上に ISSN (国際標準逐次刊行物番号) が入りました。内容はわかりませんが、(さかもと) この夏で 30 才になります。人生の節目に、この場をお借りして宣言「メタボにはならないぞ!」(ながしま)